

第181話 本町域の私塾・寺子屋⑩ 中山町 歴史散策

小野利右衛門塾

小野家の祖先是寛永年間（1624～1644年）までさかのぼります。元禄元年（1688年）および同12年（1699年）に長崎村の大庄屋としての記録があり、また、八坂神社の縁起にも次の記録が残っています。

「元禄年中御代官諸星内蔵助様御手代若林武助殿御信仰の余り鳥居寄進有之此節当村大庄屋小野利右工門新尊像致再興令安置候」とあり、当時の小野家の社会的な地位の高さを表しています。

塾を開いた利右衛門政雄は小野家の9代目の主人の嫡男として、明和3年（1766年）に元町に生をうけました。小野家は酒造業も営んでいましたが、宝暦以来の凶作に洪水が度重なったことや、さらには幕府からの酒造禁止令もあり、小野家の家運も大きく傾きかけていました。

彼は家運の再興より勉学に志を傾け、儒学の道に励みました。彼の師は不明ですが、子弟は多く、中には四書五経やその他の高度な漢学を学んだ者も少なくありませんでした。円同寺にある酬恩碑の裏に門人の代表として朝倉勘兵衛（のちに名主を勤める）、佐藤栄蔵、公平五右衛門（西根村豪家）の3人の名前があります。享年85歳、

嘉永4年（1851年）2月に天寿を全うしました。

碑の側面に残された辞世の和歌は  
飯の世を厭いて今は入相の  
弘誓の船に鐘の声々

この歌からも師の晩年の諦観的な人生観と、住時の小野家の繁栄と衰退を読み取ることが出来ます。同家は菩提寺の円同寺にとってはこれまで登場した松田長益家とともに最旧家であり、長年にわたり多額の寄進を仰いでいました。家屋や屋敷は現在の役場付近にあり、広大な宅地であったといわれています。

【用語説明】

▼縁起・社寺の起源・由来や靈験などの言い伝え。また、それを記した文献。

▼四書五経・儒家が特に尊崇する經典。四書は『大学』『中庸』『論語』『孟子』。まず先立って学ぶべきものとして宋代に朱氏が命名。五経は『周易（易経）』『尚書（書経）』『詩経』『礼（礼記）』『春秋』。

▼諦観・本質をはっきりと見極めること。

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.49

～ 地域おこし協力隊、残りあと半年となりました！～

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の伊藤です。

協力隊の任期終了までの在任期間が、ちょうど残り半年となりました。

今までの私が取り組んできた協力隊業務としては、主に中山町の観光振興推進に関することですが、これからの半年は起業に向けた本格的な準備を進めていく予定です。

この2年半の間、地域の方々には大変お世話になり、さまざまな場面で、さまざまな方々に助けていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

私個人の想いとしては、地域おこし協力隊退任後も、中山町の地域振興に関われるように、これからも精一杯努力していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

インバウンド芋煮会▶



●協力隊への問い合わせ先●

伊藤 ☎662-2114（産業振興課）／ 稲垣 ☎662-2235（教育課）／ 高橋 ☎662-2223（総務広報課）